

目次

功労賞を受賞して.....	八戸赤十字病院	安永 泰彰	1 -
功労賞を受賞して.....	八戸市医師会臨床検査センター	久保 忠利	1 -
功労賞を受賞して.....	公立七戸病院	西谷 浩樹	2 -
功労賞を受賞して.....	つがる総合病院	太田 孝雄	2 -
奨励賞を受賞して.....	青森市民病院	八木橋祐弥	3 -
奨励賞を受賞して.....	弘前大学医学部附属病院検査部	櫛引 美穂子	3 -
第47回青森県医学検査学会を終えて.....			4 -
令和4年度第1回理事会議事録.....			4 -

功労賞を受賞して

八戸赤十字病院 安永 泰彰

この度は、青臨技功労賞をいただきまして誠にありがとうございました。これまで長い間お世話になった青臨技の皆様へ厚く御礼申し上げます。

臨床検査技師のスタートを切った時から40年近く経ちますが、歓迎会での情景がまだ思い出されます。それほど年数が経ってないように感じますが、振り返りますとこの医療・検査業界は凄まじい変化をみせ、さらに数十年後には私が想像もつかない発展を遂げていることと思います。一例を挙げますと、血球測定検査においては血小板数は別の装置で測定して報告書は手書きとか、手洗いは洗面器にヒビテン液を入れた手洗いを作り、みんなで共有して朝昼夕の交換など、昔の常識は今は非常識です。

現在、コロナ渦において、Webでの活動が中心になってきましたが、最初は違和感があったものの、今ではメリットも感じ、これからはスタンダードになっていくことでしょう。

青臨技技師会活動では事務局を担当させていただき、組織体制など大変勉強になりました。なるべく多くの会員が、短い期間でも技師会活動に携ることで、その重要性、有用性等、感じてもらえるものと思います。

最後になりましたが、益々の青森県臨床検査技師会の発展と、会員の皆様のご活躍を祈念し、お礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

功労賞を受賞して

八戸市医師会臨床検査センター 久保 忠利

功労賞のお話をいただいた頃の私は、技師長として臨床検査センターの新築移設、新設の遺伝子検査（新型コロナウイルスPCR検査）に戸惑いながらも必死になっているところでした。

そのような中に、このような記念になる賞をいただきまして大変うれしく思っています。新型コロナウイルス蔓延のため表彰式がないことを気遣って、職場の方が表彰式をして下さったことも大きな喜びでした。

職場、三八支部の方々をはじめ、たくさんの方々に支えていただき、これまで臨床検査技師として務めさせていただきました。

また、青森県臨床検査技師会の取り組みを通じて、いろいろな方々と接する機会をたくさんいただきました。その一つ一つが、私の人生をより豊かにしていただいたように思います。本年3月に定年を迎えましたが、私の臨床検査技師の取り組みはもう少し続くようです。今後ともよろしくお願いたします。最後になりましたが、青森県臨床検査技師会、並びに会員の皆様の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。誠にありがとうございました。

功労賞を受賞して

公立七戸病院 西谷 浩樹

この度は、青臨技功労賞を頂き誠にありがとうございました。会長はじめ、青臨技の皆様、上十三支部の皆様には心より感謝申し上げます。この原稿も、昔の古き良きおらかな技師会時代を回想しながら書いています。最初の青臨技の役員は、34歳の時の上十三支部長(当時は地区会長)でした。技師会の事など全然分からず、理事会に出席してもほとんど発言できなかった事を記憶しています。さらに運の悪いことに、青森市で開催の東北学会を控えていて、その当時は学会の運営費を各病院の寄付によって賄っていたため、寄付金を集めることが支部長の仕事でした。その時だけは指名してくれた当時の技師長を恨みました。そんな絶体絶命のピンチに手を差し伸べてくれたのが、前任者の岩城さん(三沢市立病院)で、仕事を休んで各施設と一緒に回ってくれました。そのおかげもあって、かなりの額を集めることが出来ました。その後の業務を遂行できたのも、たくさん先輩や後輩にも助けられたからだと言えながら感じています。そのため、16年後の2回目の支部長や組織調査担当理事も「なんとかなるさ」という思いで引き受けました。このコロナ禍でZOOMを使つての学会、総会、研修会等は開催できますが、やはり残念なのは、懇親会ができないことだと思います。人付き合いが苦手な自分も、青臨技主催のボーリング大会、東青支部主催のハロウィンパーティー等に参加してたくさんの人を覚えましたから。最後に一言。後輩諸君が青臨技を一層盛り上げてくれることを願っています。

功労賞を受賞して

つがる総合病院 太田 孝雄

この度、青臨技功労賞を賜りましてありがとうございます。ご推挙頂きました斎藤会長をはじめ役員の皆様に感謝申し上げます。臨床検査技師として西北中央病院からつがる総合病院と38年間勤めさせて頂きました。就職した頃の技師会は、学会や研修会はもちろんですがボーリング大会、将棋大会などレクリエーション活動も盛んで会員の交流の場が多かったと思います。そこで沢山の仲間を知ったことが大きな財産だと思っています。県技師会活動としては、西北病院時代に同僚の金川佳弘事務局長の補佐として携わったのが始まりでした。彼が病に倒れたのは残念でしたが功績は大きかったと思います。その後、血液部門の精度管理委員を4期8年間、県役員を6年間勤めさせて頂きました。精度管理では血球形態がFAB分類からWHO分類への移行時期であり、日常遭遇する細胞や鑑別する細胞など色々と悩みながら問題作成していました。また西北五支部での三度の県学会と平成22年に八戸で行われた第51回東北医学検査学会や平成30年に青森市で行われた第7回日臨技北日本支部医学検査学会の実務委員として携わったことが思い出です。このような機会を与えて下さった先輩方や同僚、職場に感謝したいと思います。最後になりますが、青森県臨床検査技師会の益々の発展と会員の皆様のご活躍を祈念いたしまして受賞のお礼とさせていただきます。ありがとうございました。

奨励賞を受賞して

青森市民病院 八木橋祐弥

この度は青臨技奨励賞を頂き誠にありがとうございます。齋藤会長をはじめ青臨技会員の皆様に感謝申し上げます。

思い起こせば 2014 年、精度管理委員をやってみないかとお声がけいただいたことが技師会活動のスタートでした。精度管理委員を 2 期 4 年担当した後は、病理細胞診部門副部門長 2 期 4 年、東青支部事務局長 2 年とずっと青臨技活動に携わってきました。それまでは、学会発表や論文など臨床細胞学会での活動が主体であり、気が進まないなあというのが正直な気持ちでした。それでも、研修会を企画・運営する立場になり、時代のニーズに合った活動が出来ないものかと自分なりに考えるようになりました。病理部門研修会では県内各施設における労働衛生環境調査を実施して、各施設の現状・問題点を共有しました。また、精度管理では液状化検体細胞診を取り入れて標本作製・スクリーニングに関する調査を実施しました。ご面倒をおかけすることもあったかと思いますが、ご協力いただきありがとうございました。最も印象的だったのは事務局長として県学会を開催したことです。自分にこの大役が務まるのかと不安はありましたが、県・支部役員の皆様のサポートのお陰で形にすることができました。技師会活動を通して施設間の繋がりを築くことができたことは、この先も必ず役に立つことだと思っています。今後ともご指導のほどよろしく願いいたします。最後になりますが、青森県臨床検査技師会の益々のご発展と会員の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。ありがとうございました

奨励賞を受賞して

弘前大学医学部附属病院検査部 櫛引 美穂子

この度は、「青臨技奨励賞」を受賞させていただき、誠にありがとうございました。ご推薦をいただきました当院検査部の石山雅大技師長、ならびにご選考下さいました青森県臨床検査技師会会長の齋藤浩治様はじめ、選考委員の方に深く感謝申し上げます。

私の技師会員歴はかれこれ 30 年を越えました。しかし、恥ずかしながら技師会活動において何かを担うという点では遅咲きでした。臨床検査技師として一般検査以外のすべてと、臨床試験（治験）管理のコーディネーター（CRC）を経験してきましたが、CRC から検査部へ再配属になる際に、ふと血液検査業務の画像解析に心を惹かれて配属を希望した日から今までずっと血液検査業務に関わってきました。振り返ると、技師会活動に興味を持ち始めたのもその頃で、技師としてどうあるべきか中堅としての意識が芽生え始めたように思います。少しでも何かの役に立てたらと中弘南黒支部の副支部長を引き受けましたが、当時の支部長でいらっしゃった奈良秀則さんがほとんどの任務を担って下さり、初心者そのまま通り過ぎてしまいました。その後、支部長として県技師会の会議に出席させていただくようになり、臨床検査技師としてのあり方や社会に対する貢献について熱く意見が交わされる会議に刺激を受けて、学術の面から精度管理調査と血液部門長を結果的に数年ですが担当いたしました。その積み重ねがこの度の奨励賞につながったわけですが、「気になっていたやりたい事」が少し叶ったと思っています。大きな事業では、北日本支部医学検査学会が青森で開催され、準備が非常に大変でしたが、血液部門として細かい任務を担って下さった各委員の皆様と交流を持つことができたことも大きな喜びでした。また、精度管理調査では、部門長も兼任していたため問題作成から集計・報告まで一人で行っていました。一人の大変さはありましたが、併せて実施したアンケート調査から青森県の施設状況が垣間見え、部門長としてどう盛り上げて行こうか考えるきっかけをいただきました。そこで、血液部門研修会を企画するに当たり心がけていたのは、参加型ということです。講師のお話を聴講する形ではなく、日々の疑問を引き出し、解決する糸口を紹介し、そして業務に活かすことを目的としました。実現させるためには、日頃から検査

室に出入りされている試薬機器メーカー様のご協力なしには成り立ちませんでしたが、企画に賛同し快く引き受けて下さったことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

最後に、「青臨技奨励賞」を受賞できたのは、皆様のご協力あってのことと深く感謝申し上げます。今後は、後進育成のための研修会開催や、日臨技の推進事業の一つである臨地実習指導者を育成するための世話人として、微力ながら努めて参りたいと思っています。引き続き臨床検査の発展に尽力させていただくことを誓い、お礼の言葉とさせていただきます。

第 47 回青森県医学検査学会を終えて

黒石市国保黒石病院 細川 和子

コロナ禍感染拡大のため 1 年順延となっていた第 47 回青森県医学検査学会が令和 3 年 6 月 6 日（日）、弘前市のアートホテル弘前シティでようやく開催することができました。当初はハイブリッド開催として 50 名の入場制限を予定して準備していました。しかし、ゴールデンウィーク明けには更にコロナ感染が拡大してしまい、最終的には会員には Zoom のみの開催となりました。例年行われていた情報交換会も行うことが叶わず、青臨技定時総会も別日に Zoom で行うこととなりました。

午前の一般演題は各分野でベテラン技師から若手技師、学生の 20 題がありました。コロナ検査など忙しい業務の中、発表の準備をしてくださり心より感謝申し上げます。

午後のランチョンセミナーでは「青臨技会長として会員の皆さんに伝えたいこと」と題し、齋藤会長が日臨技の今後の活動、タスク・シフト/シェアなどについて詳しく説明していただきました。

教育講演では弘前大学医学研究科臨床検査医学講座 教授 萱場広之先生より「青森県における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）－弘前圏域を中心に－」と題し、コロナウイルス感染についての詳しい説明、そして県内地域に関連しての情報などをお教えいただきました。

公開講演では弘前大学医学研究科泌尿器科学講座 教授 大山力先生より「腎不全医療の進歩－腎移植を中心に－」と題し、腎不全の病態の説明や県内の腎移植の状況などをお話していただきました。大山先生の公開講演は会員のみならず一般の方にも視聴できるよう YouTube 配信をしました。

大山先生、萱場先生には大変お忙しい中、会場にお越しいただき深く感謝申し上げます。

当日の参加登録数は会員 176 名、学生 29 名、賛助会員 19 名、会場 15 名の計 233 名と多くの方に視聴していただきました。例年以上に参加していただき感謝申し上げます。今後はこのような形式も多くなるかと思われませんが、いずれはまた皆様とお会いできる学会になるのを期待しています。

今回、初の試みとなった Zoom 形式の学会はスムーズに運営するため、業者の方をお願いして開催しました。事前に何度も打ち合わせし、演者や座長の方々には事前練習に参加、協力していただきました。練習の成果が実り、当日はほぼ時間通りに運営でき、学会を終えることができましたとっております。

最後になりましたが、今回の学会開催にあたり準備・運営にてご指導、ご協力いただきました青臨技会長はじめ理事の皆様、会員の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

【理事会議事録】

令和 4 年度第 1 回理事会議事録

1. 日 時：令和 4 年 5 月 23 日（木）18:30～20:00
2. 出席者：齋藤浩治、石山雅大、奥沢悦子、木村正彦、野坂知加、吉田泰憲、逆井久美子、小山内誠、吉岡拓朗、川口裕美、高松みどり、細川和子、番場隆彦、本田昌樹、河村義雄、神山哲哉、吉岡治彦、三上英子、太田孝雄、鹿間悟
3. 欠席者：米沼順子

定款第 5 章第 32 条及び諸規定により、議長に齋藤会長があたり、書記に高松理事が指名され、審議が行われた。審議は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により、オンラインで行われた。

【報告事項】

1. 学術部経過報告

石山学術部長より特になしと報告があった。

2. 公益部経過報告

齋藤会長より高校心電図健診は順調に進んでいるとの報告があった。

3. 渉外部経過報告

木村渉外部長より特になしと報告があった。

4. 事務局経過報告

野坂事務局長より特になしと報告があった。

5. 齋藤会長より報告

①日臨技理事会報告

1) 令和 3 年度支部学会参加者報告

2) WEB 学会の経費

Live 配信もすると費用がかかる。今後の学会運営として、全国学会は WEB 併用、支部学会は現地開催の方向です。

3) 精度管理事業

SARS-Cov2 遺伝子検査の導入として約 1,000 万円の費用がかかっている。

4) 総会

6 月 25 日に日臨技の定時総会が行われる。議案書が届き次第、電磁式または書面にて意思表示をすること。

②タスクシフトシェアに関する厚生労働省指定講習会

5 月 15 日（日）東奥日報新町ビル 3 階ホールで参加者 58 名、実務委員 7 名で開催した。次回は直腸肛門機能検査の早川先生の予定と 9～11 月で日程を調整中。今後は今回の受講者の中から数名に実務委員を担当してもらい、事前準備も含め実務担当者を増やしたい。

【議題】

1. 県学会

番場理事より県学会の進捗状況の説明があった。抄録集は今月中に完成予定。

齋藤会長より以下の提案があった。

①当日スケジュール

9：00～9：45 総会、奨励賞・功労賞授賞式

9：50～11：50 学会（15 演題、1 演題につき発表 6 分、質疑 2 分）

12：00～12：50 ランチョンセミナー

13：00～14：00 特別講演

②ランチョンセミナーについて

- ・3社より申込あり。協議の結果「デンカ株式会社：sd-LDLの臨床意義について」に決定。残り2社の内容も非常に興味深いため、今後勉強会で開催したいと考えている。
- ・お弁当は50個準備する。

③演者・座長・理事の参加

現地参加かWEB参加を演者・座長は学会事務局で、理事はサイボウズで確認することとなった。

④前日準備、その他

- ・前日準備は14時頃から開始。
- ・当日は、総会と学会で生涯教育の分類が異なるため受付をどうするかが課題となった。

野坂理事より以下の提案、質問があった。

①学会参加費について

齋藤会長より会費は無料でもいいのではないかと提案があった。

理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

2. 総会議案書の内容

野坂事務局長より事業経過報告、吉岡（拓）理事より会計報告、太田監事より監査報告があった。6月初旬には各施設および自宅会員へ発送し、書面表決書提出の締め切りを6月15日とすることとなった。

理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。